

「個に応じた少人数指導推進事業」

習熟度別少人数指導の手引き

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和2年3月



=目次=

1 習熟度別少人数指導のねらい	P. 1
2 学習集団の編成	P. 2
3 習熟度別少人数指導の授業の進め方	P. 5
4 習熟度別少人数指導を効果的に進めるために	P. 11
5 推進体制	P. 12
6 参考	P. 13
7 実践事例	P. 14

習熟度別少人数指導の単元計画と授業例

確かな学力の向上を図るために、習熟の程度の違いを踏まえた単元計画と授業	P. 14
-------------------------------------	-------

単元計画の工夫例

①一斉授業と習熟度別授業を効果的に組み合わせる単元計画	P. 16
②担当教員間の共通理解を図るために、学習のねらいや内容を明確にした単元計画づくり	P. 17

習熟度別少人数指導の授業例（小学校）

①学習集団の状況に応じてアプローチを変え、同じめあての達成を目指す授業	P. 18
②学習集団の状況に応じた板書の工夫	P. 19

習熟度別少人数指導の授業例（中学校）

①学習集団の状況に合わせた学習支援が見られる授業	P. 20
②学習集団の状況に応じてアプローチを変え、同じめあての達成を目指す授業	P. 21

よりよい授業につなげるために…

指導者の単元ごとの振り返りの蓄積	P. 22
------------------	-------

学びの支援となる学習環境設定例

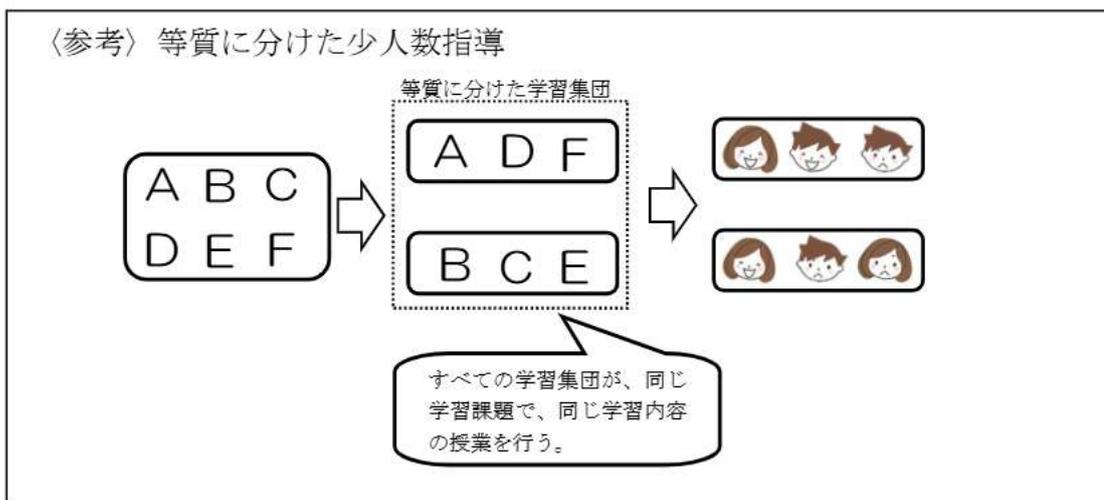
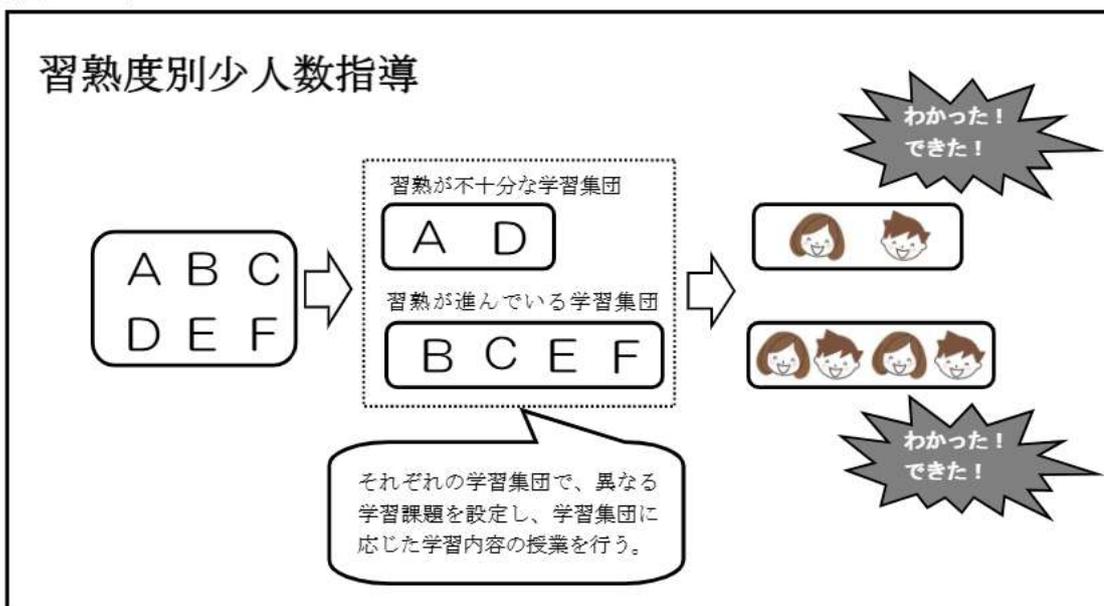
ICT機器の活用、学びの定着を図る学習プリントなど	P. 23
---------------------------	-------



1 習熟度別少人数指導のねらい

- 習熟度別少人数指導は、個に応じたきめ細かな指導の一つであり、確かな学力の育成を目指すものです。習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成することで、児童生徒が個々の状況に応じて学習することができる環境を実現し、一人ひとりがわかることやできることの喜びを実感できるような少人数指導を行います。
- 習熟度別少人数指導では、習熟度別に学習集団を編成し、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、発展的な学習を行うことにより、児童生徒一人ひとりの学習の状況に応じたきめ細かな指導を行うことができます。

(イメージ)



2 学習集団の編成

算数科や数学科など、学習内容を系統的に学んでいく教科では、児童生徒の理解や習熟の程度の差が大きくなりがちであり、その対策として、学習集団の特徴や習熟の程度の違いを踏まえた学習集団の編成が有効です。また、学習速度の違い、学習のねらいや学び方の違い等、様々な視点での編成が考えられます。

(1) 学習集団編成の手立て

- 資質・能力およびその内容を明確にし、多様な方法で情報を収集して実態把握をする。
 - ・レディネステスト、児童生徒の学力向上を図るための調査、学びの基礎チャレンジ、ガッテンプリント、市町教育委員会独自調査、全国学力・学習状況調査等を活用する。
- 児童の習熟度等を多面的に把握し、個に応じた指導を展開する上で活用できる基礎資料を作成する。
 - ・理解の程度や技能の習熟度、学習の仕方、学習速度、興味・関心等を把握し、基礎資料を作成する。

(事例：第5学年 単元「小数のわり算」に入る前の既習事項の習得状況の確認)

小学校第4学年 診断シートA									
1	3529047185を読みましょう。								
2	786×509を計算しましょう。								
3	808÷259を計算しましょう。商を整数で求め、わりきれないときはあまりもだしましょう。								
4	61601472を四捨五入して、千の位までの概数にしましょう。								
⋮									
8	6.342-5.74を計算しましょう。								

出席 番号	問題番号								正答率
	1	2	3	4	...	8	...	19	
1	○	○	○	△	...	○	...	○	85%
2	○	△	△	○	...	○	...	○	65%
3	△	△	○	△	...	○	...	△	35%
4	○	○	○	△	...	○	...	○	75%

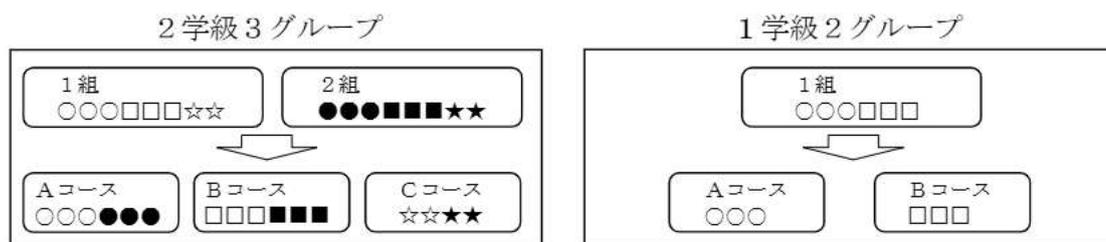
※完全習得…○ 未習得…△

出典：東京方式習熟度別指導ガイドライン

(2) 学習集団の分け方

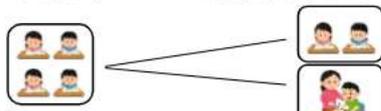
- 「新しい内容を学習するために、既習の内容を復習して学びを進める」「新しい内容を繰り返し確かめる」「新しい内容を活用する」等、児童生徒の学習の内容に応じて、2学級3グループ、1学級2グループなど、効果的な指導が行える学習集団の編成をしましょう。なお、グループのネーミングについては、人権上の配慮を十分に行い決定することが必要です。
- 関連する学習内容の定着度確認問題や、児童生徒および保護者へのアンケートから、一人ひとりの学習状況に応じた指導と支援ができるようにグループ編成をしましょう。
- 単元の途中においても評価を行い、一斉指導と習熟度別少人数指導を組み合わせるなど、指導の効果が一層高まるようにしましょう。
- 優越感や劣等感を生じさせないように、また、長期にわたる固定した学習集団による意欲の低下を招かないように、単元ごとや単元の途中で学習集団の組み換えを行うなど、工夫をしましょう。

(学習集団の編成例)



(単元における習熟度別指導の位置付けの例)

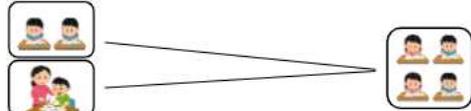
例① 一斉指導 → 習熟度別少人数指導



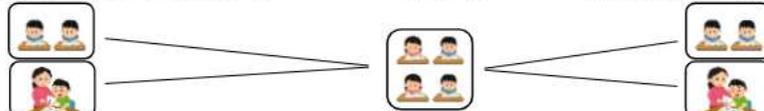
例② 一斉指導 → 習熟度別少人数指導 → 一斉指導



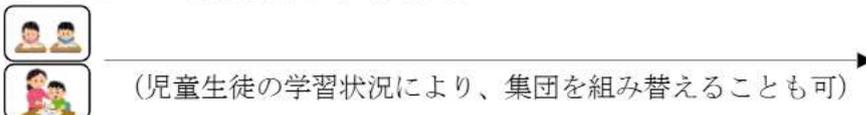
例③ 習熟度別少人数指導 → 一斉指導



例④ 習熟度別少人数指導 → 一斉指導 → 習熟度別少人数指導



例⑤ 単元を通して習熟度別少人数指導



(学習集団の編成の取組例)

児童の理解や習熟の程度等に応じて、「確かな学力」を育むための効果的な学習集団を編成する。

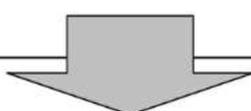
学習集団の編成に当たっては、以下の点に留意し、2学級3展開を基本とし、1学級2展開を組み合わせ、基本的に全ての時間で習熟度別指導を実施する。

- ① 理解の程度や技能等の習熟の程度の違いに応じた学習集団を編成する。
 - ・必要に応じて、学習速度の違いや学習の仕方の違い、興味・関心の違いを考慮した学習集団の編成も考慮する。その際、習熟の程度に差が生じやすい教科である算数において、単元の内容等と効果的な指導の視点から十分に検討する。

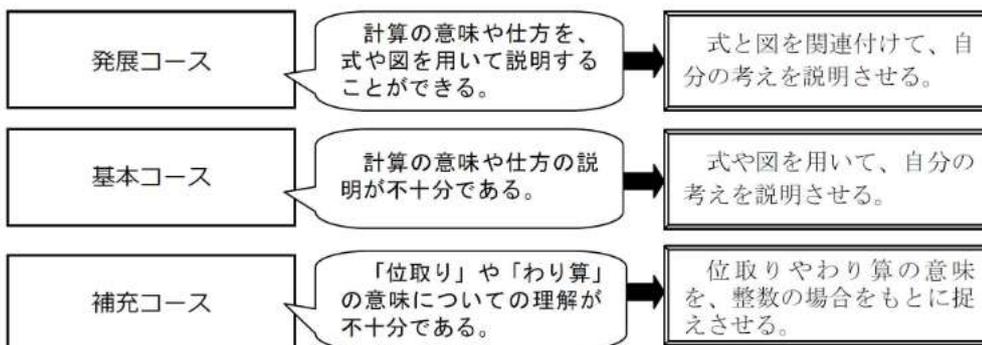
《事例》 第5学年 単元「小数のわり算」に入る前の既習事項の習得状況の確認Ⅱ

単元における観点ごとの評価の総括表を活用 ※既存の評価補助資料等を活用する。

単元評価資料						
単元名「◆◆◆◆◆」(第◆学年)						
出席番号	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	所見	コース
1	A	A	A	A	計算技能が高く、計算の仕方を、図を用いて説明できる。	発展
2	A	B	B	B	意欲的に取組んでいるが、計算の仕方の説明が不十分である。	基本
3	B	C	C	C	わり算の技能が不十分である。	補充
4	A	B	A	B	計算の技能は高いが、計算の仕方の説明が不十分である。	基本
5	C	B	A	A	計算の仕方を説明できるが、学習の意欲が不十分である。	基本
6	B	A	A	A	計算の仕方を、式や図を用いて説明できる。	発展



次の単元に入る前に既習事項の習得状況を確認し、理解の程度や技能等の習熟の程度の違いに応じた学習集団を編成するとともに、つまずきに応じた段階的な指導計画を立てる。



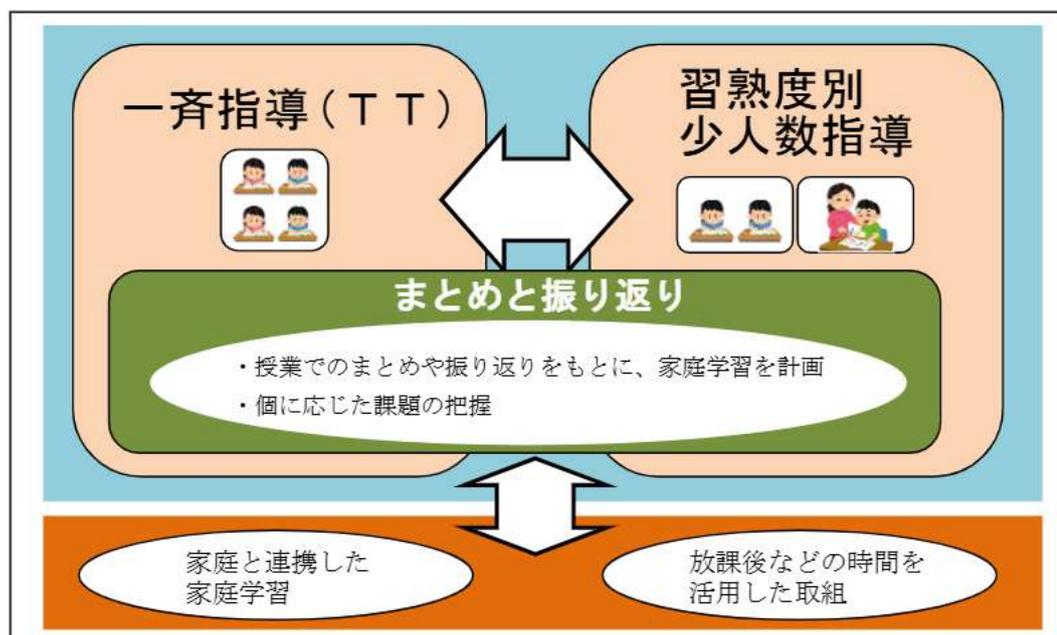
※ 児童の実態及び単元の特性により、柔軟にコース編成を行うことが大切です。

出典：東京方式習熟度別指導ガイドライン

3 習熟度別少人数指導の授業の進め方

(1) 指導計画

指導方法を工夫し、一斉指導（TT）と習熟度別少人数指導を効果的に組み合わせ、学びの実感がもてるようなまとめや振り返りの時間を設定しましょう。その上で、家庭学習の計画を立てたり、放課後などの時間を活用した取組を行ったりするなど、指導の効果が一層高まるようにしましょう。



○全ての学習集団で、内容および教材・教具等を同一に指導するのではなく、習熟の程度やつまずきの傾向を把握して、その学習集団に適した指導を行います。児童生徒の実態に応じて期待する児童生徒の姿を設定し、実現に向けた授業を展開します。

「補充的な指導」・・・習熟が不十分な児童生徒

- (例)
- 1 学習後の期待する児童の姿を設定する。
 - 2 基礎的な問題を反復する学習の場面を設定する。
 - 3 問題ができるようになるまで、繰り返し支援を行う。
 - 4 授業を振り返り、家庭学習を計画する時間を確保する。
 - 5 単元の内容や児童生徒の理解の状況等によって発展的な内容も扱う。

「発展的な指導」・・・習熟が進んでいる児童生徒

- (例)
- 1 学習後の期待する児童の姿を設定する。
 - 2 基礎的な問題を反復する学習の場面を設定する。
 - 3 つまずきやすい問題について繰り返し支援を行う。
 - 4 発展的な内容の学習や課題学習を取り入れる。
 - 5 授業を振り返り、家庭学習を計画する時間を確保する。

○一人ひとりの学習状況を的確に把握し、一斉指導（TT）のねらい、習熟度別少数指導のねらいを明確にした効果的な指導計画を作成することが大切です。また、学習集団の指導内容・方法等をまとめた実施計画を作成しましょう。

【例：小学第3学年「小数】（ は、コースにより学習内容、進度を変えた時間）

時間	どんどんコース		じっくりコース
1	【一斉指導（TT）】小数の意味と表し方		
2	小数の表し方	発展的な問題にも取り組む	小数の意味と表し方
3	小数の大きさ		小数の表し方
4	小数と分数		小数の大きさ
5	小数のたし算とひき算		小数と分数
6	小数のたし算とひき算の筆算①		小数のたし算とひき算
7	小数のたし算とひき算の筆算②		小数のたし算とひき算の筆算①
8	練習問題		小数のたし算とひき算の筆算②
9	復習・発展問題・まとめ	復習・練習問題・まとめ	

一斉指導でつまずきの傾向を把握する。

【例：中学第1学年「文字と式】（ は、コースにより学習内容、進度を変えた時間）

時間	発展コース		基本コース	補充コース
1	【一斉指導（TT）】文字を使った式			
2	数量を表す式	発展的な問題にも取り組む	数量を表す式	数量を表す式
3	式を書くときの約束（1）		式を書くときの約束（1）	式を書くときの約束（1）
4	式を書くときの約束（2）		式を書くときの約束（2）	式を書くときの約束（2）
5	式による数量の表し方		式による数量の表し方	式による数量の表し方
6	式の表す意味		式の表す意味	式による数量の表し方
7	式の値		式の値	式の表す意味
8	発展問題		練習問題	式の値
9	【一斉指導（TT）】復習・活用問題・まとめ			

一斉指導でつまずきの傾向を把握する。

一斉指導で、多様な活用場面を共有化する。

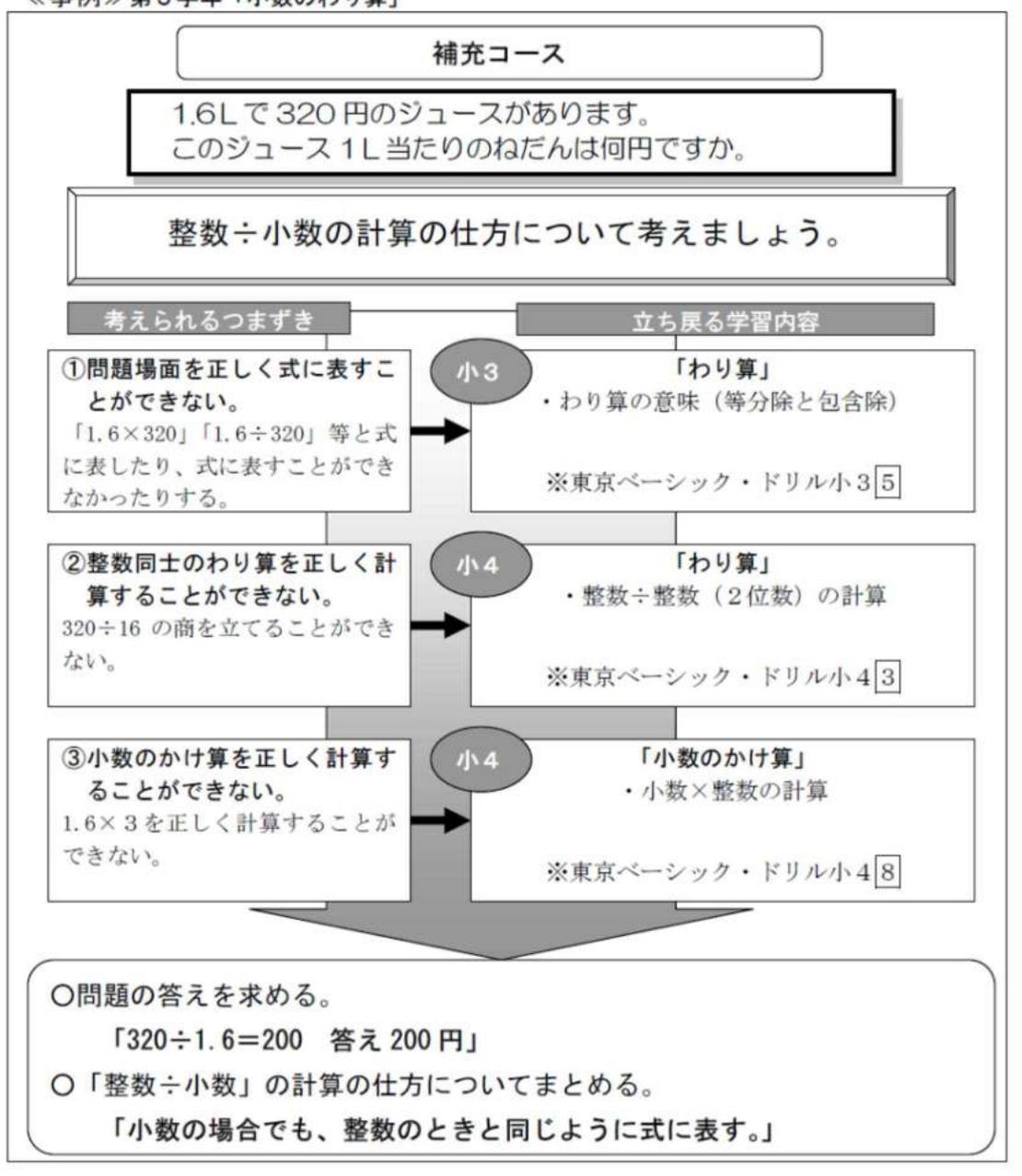
(実践例)

補充的な学習

「補充的な指導」については、以下の点に留意し、具体的な学習到達度等を設定し、その達成に向けた段階的・系統的な指導を行う。

- ① 分からない箇所に立ち戻る指導を徹底する。
 - ・東京ベーシック・ドリル等でつまずきの傾向を把握し、前学年までの既習事項を含めて、つまずきに応じた段階的・系統的指導を徹底する。

《事例》第5学年「小数のわり算」



発展的な学習

「発展的な指導」については、以下の点に留意し、教材開発による応用・発展的な内容を提示したり、課題選択や課題学習を設定したりするなどの指導の工夫を行う。

- ① 学習内容の理解を一層深めたり広げたりする指導や、更に進んだ学習内容の指導を実施する。
 - ・「発展的な学習を推進するための指導資料」等を活用し、児童の能力・適性・興味・関心等に応じた指導の充実を図る。

《事例》第5学年「小数のわり算」

発展コース

1.6Lで320円のジュースがあります。
このジュース1L当たりのねだんは何円ですか。

整数÷小数の計算の仕方について考えましょう。

○問題の答えを求める。

「 $320 \div 1.6 = 200$ 答え 200円」

○「整数÷小数」の計算の仕方についてまとめる。

「小数の場合でも、整数のときと同じように式に表す。」

【練習問題】

mで360円のリボンがあります。このリボン1mのねだんは何円ですか。

○に小数を当てはめ、計算をして答えを求める。

例：に2.4を当てはめ、「 $360 \div 2.4 = 150$ 答え 150円」

例：に1.8を当てはめ、「 $360 \div 1.8 = 200$ 答え 200円」

【発展問題】わる数が小数第2位までである小数のわり算

3Lの牛にゆうを0.25Lずつコップに入れます。牛にゆうが0.25L入ったコップは何個ですか。

○問題の答えを求める。

「 $3 \div 0.25 = 12$ 答え 12個」

(2) 評価

○目標に準拠した評価・観点別学習状況の評価を行います。

- ・習熟度別少人数指導は、全ての児童生徒が単元目標の実現を目指すものです。どの学習集団においても、単元目標の実現状況の評価するため、同じ評価規準を設定します。

○一人ひとりの学習状況を重視し、児童生徒のそれぞれのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価します。

- ・評価結果について、学力や学習状況の他、学習態度や意欲等も記録するとともに、自己評価や相互評価も取り入れましょう。
- ・児童生徒の小さな進歩や成長を見逃さず、その子のよい点や可能性、進歩状況などを評価したり、よさをとらえ積極的に価値付けたりすることで、個に応じた指導をより深めていきましょう。

○担当教員同士が連携を図り、評価の妥当性を高めるようにします。

- ・評価規準を踏まえて、児童生徒の学習状況について担当教員同士で交流し、指導に生かすようにしましょう。
- ・どの学習活動において、どのような観点から評価するのか等、共通理解を図ることが不可欠です。
- ・評価結果については、根拠となる児童生徒の姿を示すなどして、吟味していくことが大切です。

○児童生徒や保護者に丁寧に説明を行い、評価への信頼性を高めるようにします。

- ・学習集団によって、評価に不公平が生まれるのではないかという不安や、評価結果について疑問が出てくることが予想されます。評価の趣旨や方法等について、保護者に丁寧な情報提供を行い、学校と家庭との連携を深めていきましょう。
- ・児童生徒の様子や学習の状況を理解してもらうため、積極的に発言する姿や友達と協力して学習に取り組む姿などを授業参観等で保護者に見てもらいましょう。

(実践例)

どの学習集団においても、同じ単元目標、評価規準を設定する。

●単元の目標【学習指導要領 C(2)時刻と時間】

時刻や時間の求め方を時計の文字盤などをもとに考え、求めることができる。また、短い時間の単位「秒」について理解し、秒を用いて時間を表すことができる。

ア 時刻や時間の求め方を理解し、日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。また、短い時間の単位「秒」の意味や「分」との関係を理解し、秒を用いて時間を表すことができる。

イ 時間の単位や正時などに着目し、時刻や時間の求め方を考え、説明することができる。

ウ 時刻や時間の求め方、短い時間の表し方を生活や学習に生かそうとする。

●単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①秒について知っている。 ②日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。	①時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かしている。	①時刻と時間に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

学習集団に適した学習内容や指導方法を設定する。

学習集団に効果的な教材・教具を使用する。

●指導・評価の計画(全5時間 本時 1/5)

次	学習内容		観点			評価規準	評価方法	育てたい数学的な見方・考え方	活用メディアとその意図	
	じゅくりコース	だんだんコース	知	思	態				じゅくりコース	だんだんコース
1	ある時刻から一定時間前後の時刻を求める基本的な問題を解決する。【本時】	ある時刻から一定時間前後の時刻を求める問題を解決する。【本時】	○	○		ア② イ①	ノート 児童観察	・目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり比べたりすること	コンピュータ・図や時計模型等を提示し、問題を視覚化する。	タブレット・ノートを投影し、考えを説明できるようにする。
2	ある時刻からある時刻までの時間を求める基本的な問題を解決する。	ある時刻からある時刻までの時間を求める基本的な問題を解決する。	○			ア② ウ①	ノート 児童観察	・単位の関係を統合的に考察すること ・量とその測定の方法を日常生活に生かすこと	コンピュータ・図や時計模型等を提示し、問題を視覚化する。	タブレット・ノートを投影し、考えを説明できるようにする。
3	ある時間とある時間をたした時間を求める基本的な問題を解決する。また、ある時間からある時間をひいた時間を求める基本的な問題を解決する。	ある時間とある時間をたした時間を求める基本的な問題を解決する。また、ある時間からある時間をひいた時間を求める基本的な問題を解決する。	○			ア②	ノート 児童観察		コンピュータ・図や時計模型を操作し、考えの共通性を立ったり、試行錯誤して問題を解決したりする。	タブレット・ノートを投影し、考えを説明できるようにする。
4	短い時間の単位「秒」や、1分=60秒の関係について理解する。	短い時間の単位「秒」や、1分=60秒の関係について理解する。	○			ア① ウ①	ノート 児童観察		コンピュータ・図や時計模型等を提示し、イメージ化を促す。	コンピュータ・図や時計模型等を提示し、イメージ化を促す。
5	単元のまとめ	単元のまとめ	○	○			テスト			

4 習熟度別少人数指導を効果的に進めるために

(1) 児童生徒への説明

習熟度別少人数指導は、教師と児童生徒の信頼関係の上に成立します。児童生徒が不安感を抱くことのないよう、習熟度別少人数指導のねらいや効果等を丁寧に伝えましょう。

児童生徒に説明する内容例

- ・習熟度別少人数指導のねらいや考え方
- ・学習集団の編成について
- ・学習集団ごとの特徴や学習目標、学習内容
- ・学習の進め方
- ・評価について 等



(2) 保護者への説明

習熟の程度に応じて学習集団を分けることについて、保護者が不安や疑問をもつことが予想されます。習熟度別少人数指導の実施前にねらいや効果、学習集団の決定方法、学習目標・学習内容等についてわかりやすく伝え、保護者の理解を得ることが必要です。校長や担当教員が、保護者会や学校・学年通信などを利用して、十分に説明しましょう。

予想される保護者の疑問・不安



- ・習熟度別少人数指導って何？
- ・なぜ、必要なの？
- ・学習集団の分け方は？
- ・習熟度別少人数指導の進め方は？
- ・学習集団の学習内容はそれぞれ違うの？
- ・我が子は、どのように評価されるの？
- ・授業の様子を参観したい。 等

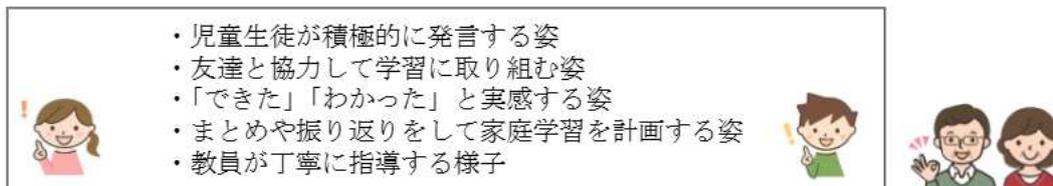
保護者に説明する内容例

- ・習熟度別少人数指導のねらいや考え方
- ・全体構想や指導計画
- ・学習集団の編成について
- ・学習の進め方
- ・評価について 等



(3) 授業公開

積極的に授業を公開し、保護者に習熟度別少人数指導の効果を実感してもらいましょう。



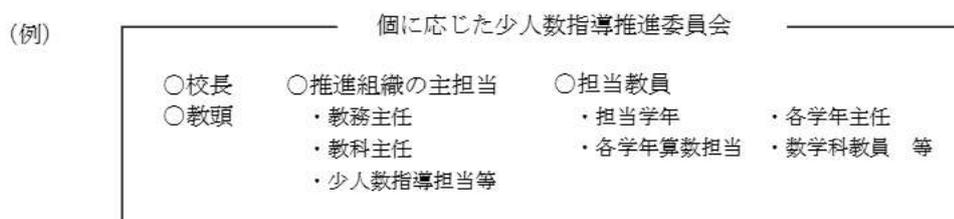
(4) 担当教員間の共通理解

習熟度別少人数指導の効果を上げるためには、担当教員同士の打ち合わせは必要不可欠です。年間指導計画、教材・教具、評価方法、観点、規準などを検討し、共通理解を図りましょう。児童生徒の到達度等の実態を把握し、習熟度別少人数指導の成果と課題を検証し、授業改善に努めましょう。

5 推進体制

(1) 推進組織

- ・個に応じた少人数指導推進事業委員会等を設置し、習熟度別指導の運営を効果的かつ円滑に進めるために、推進組織をつくります。



- ・管理職は、推進委員会の長を指名し、適宜助言を行います。
- ・推進組織の主担当は、校内の習熟度別少人数指導等の進め方等について推進委員会を定期的開催するなどして、取組の進捗状況を確認しましょう。
- ・OJTや初任者研修などとも関連付けて、教員同士で授業を参観することにより、推進委員会に参加することも考えられます。

(2) 推進委員会での具体的な取組例

【年間を通した計画】

- ・小学校および義務教育学校（前期課程）第3学年の算数、中学校第1学年および義務教育学校（後期課程）第7学年の数学の授業において、年間実施時数のおおむね1/2以上で習熟度別少人数指導を行うよう、年間を通した単元計画を立てます。
- ・個に応じた少人数指導推進事業の年間計画を立てます。

(例) 児童生徒や保護者への説明

個に応じた少人数指導推進事業委員会の開催

保護者に習熟度別少人数指導の授業公開

校内研究会の設定

レディネステスト等による学習集団編成

アンケート等による学びの定着の検証・分析 等

【授業の準備と評価】

- ・習熟度別少人数指導のねらいや効果、学習集団の決定方法、学習目標・学習内容等について、児童生徒や保護者に説明します。
- ・習熟度別学習集団の編成のためのレディネステスト、希望調書等を作成します。
- ・学習集団ごとに、習熟度別授業の計画の立案をします。
- ・学習集団ごとの教材・教具等の準備を行います。
- ・評価規準、評価方法等を設定します。
- ・評価問題を作成します。
- ・習熟の程度に合わせた個に応じた学習支援の準備をします。(ガッテンプリント等)
- ・学習集団の担当教員同士の連携を図るための打ち合わせの時間や内容を設定します。

打ち合わせの時間を設定しておく。

例：・毎週○曜日 ○時～ △分間

・単元の内容のまとまりごと 等

打ち合わせの内容を決めておく。

例：・学習集団の分け方について

・それぞれの学習集団の学習内容について 等

- ・学習の定着状況を確認します。(学びの基礎チャレンジ等)

- ・成果や課題等をまとめ、推進委員会で報告し、次の実践に生かしましょう。

(PDCAサイクル)

6 参考

○東京方式 習熟度別指導ガイドライン（東京都教育委員会）

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/school/document/advancement/on_achievement.html



○習熟度別指導実践事例集（岡山県教育庁）

<http://www.pref.okayama.jp/site/16/detail-63752.html>



7 実践事例

習熟度別少人数指導の単元計画と授業例

確かな学力の向上を図るために、習熟の程度の違いを踏まえた単元計画と授業

小学校第3学年 「あまりのあるわり算」

*新学習指導要領による

単元目標

- (知) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (思) 割り切れない場合の除法の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (態) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

単元構成の

ポイント

①子どもたちの実態把握をする。

⑦⑧2つのコースで進度や学習内容を変える。

⑩ 単元の終末をそろえる。

単元が始まるまでにレディネステストを行い、第1時から習熟度別少人数指導を実施します。子どものつまずきに合わせて、前の学年の復習にも取り組むことができます。

また、第1時に一斉授業で、復習と準備の時間を設けて、子どもたちの実態把握をし、授業の後半で、レディネステストを行うことも可能です。

習熟の程度により、学習内容を工夫する場合でも、2つのコースとも単元目標と評価規準は同じです。そこで、めあてや評価方法等を綿密に設定することが大切になります。

習熟度別少人数指導を行うことで、2つのコースで進度の違いが出てきますが、どの学習集団においても単元目標の実現状況を評価するため、単元の終末は、必ずそろえます。

単元構成 (全11時間)

		主な学習活動		指導上の留意点		評価規準	
		じゅくりコース・どんどんコース	どんどんコース	じゅくりコース	どんどんコース	じゅくりコース・どんどんコース	ポイント
第一次	習熟度別	①既習事項の復習、「あまりのあるわり算」の準備をする。		・前学年のかけ算に戻って復習することも可能。		・レディネステストの結果から、子どもたちのつまずきを把握し、復習をする。	
	習熟度別	②余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図等を用いて考える。 ③余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知る。 ④余りと除数の関係を理解する。 ⑤等分除の場面についても、余りがある場合の除法が適用できるか考える。 ⑥割り切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。		・日常の事象や算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物や図を用いて理解を深められるようにする。 ・1つずつの問題にじっくりと時間をかけて取り組めるようにする。	・日常の事象や算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式等を用いて解決できるようにする。 ・多様な考えの共通点や相違点から、ねらいに迫る。また、多様な表現(具体物、言葉、図、数、式等)をつなげることで理解を深めていく。	②除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図等を用いて表現しようとしている。(態) ②③④⑤除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図等を用いて表現している。(思) ③包含除や等分除等、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。(知) ④割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さくなることを知っている。(知) ⑥余りがある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。(態)	
第二次	習熟度別	⑦余りを切り上げて処理する場面で、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。	⑦余りを切り上げて処理する場面で、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。	・1つずつの問題にじっくりと時間をかけて取り組めるようにする。	・1つの問題に対して、多様な方法で考える。それぞれの考えの共通点や相違点から、ねらいに迫る。 ・多様な表現(具体物、言葉、図、数、式等)をつなげることで理解を深めていく。	⑦・余りがある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。(思) ・除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図等を用いて表現しようとしている。(態)	⑦・余りがある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。(思) ・除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図等を用いて表現しようとしている。(態)
	習熟度別	⑧余りを切り捨てて処理する場面で、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。	⑧余りを切り上げて処理する問題や余りを切り捨てて処理する問題の適用問題で習熟を図る。			⑧	⑧
第三次	習熟度別	⑨学習内容のたしかめをする。		・それぞれの子どもを理解度に合わせて問題数や難易度を調整する。	・発展的な問題にも取り組むようにする。	・包含除や等分除等、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。(知) ・除数と商が共に一位数である除法の計算が確実にできる。(知) ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。(知)	
	一斉	⑩評価テストをする。 ⑪学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。		・これまでの学びを指導者がしっかりと把握し、一人ひとりが単元のまとめをする。		・余りがある除法の余りについて日常生活の場面に応じて、考えようとしている。(思)	

※ (知)は「知識・技能」、(思)は「思考・判断・表現」、(態)は「主体的に学習に取り組む態度」を表す。

第7時の2つのコースの学習内容の違いは・・・

	じっくりコース	どんどんコース
ねらい	・余りを切り上げて処理する場面の商と余りの解釈	・余りを切り上げて処理する場面の商と余りの解釈 ・余りを切り捨てて処理する場面の商と余りの解釈
扱う問題数	課題問題1問と適用問題1問	課題問題2問と適用問題1問
自力解決	具体物や図等を中心に使う	多様な方法(具体物、図、言葉、数、式等)を使う
学び合い	1つの考えをじっくりと	多様な考えを取り上げ、その関係性にも注目する
次時の学習内容	余りを切り捨てて処理をする場面の問題解決	適用問題や発展問題



じっくりコース本時の展開の

ポイント

- ◎どんどんコースで学習する内容を、2時間に分けて学習するので、1つの問題にじっくりと時間をかけて取り組むことができます。
- ◎1時間の授業の中で、時間の余裕が生まれるため、具体物の操作や実際の動作(実際に4人で1脚の長いすに座ってみる)等を通して理解を深めることができます。

どんどんコース本時の展開の

ポイント

- ◎1時間の学習で、余りを切り上げて処理する場面と余りを切り捨てて処理する場面の2つの場面を同時に学ぶことで、場面によって余りの処理の仕方が異なることに注目することができます。
- ◎1つの問題に対して、多様な方法で考えます。それぞれの考えの共通点や相違点から、ねらいに迫ります。また、多様な表現(具体物、言葉、図、数、式等)をつなげることで理解を深めていきます。

第7時の展開 (全11時間)

本時の目標 じっくりコース
余りを切り上げて処理する場面で、商と余りをどのように解釈すればよいかを考えることができる。

主な学習活動 指導上の留意点(○)・評価規準(□)

1. 問題の把握とめあての共有をする。
・問題(余りを切り上げて処理する場面の問題)を読んで、問題の意味を理解し、めあてをもつ。

問題: 35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。

- 問題場面や意味の理解を図るために、「分かっていること」、「問われていること」を色分けして線をひく。

- 具体物等を用いて、しっかりと問題場面が把握できるようにする。

めあて: あまりをどうするか考えて答えをもとめよう。

2. 自力解決をする。
・全員がいすに座るために、 $35 \div 4 = 8$ 余り3の余りの3人をどうするかについて考える。
・おはじきを操作したり、絵や図をかいて考えられるようにする。

- おはじき等の具体物や絵や図を用いて、自分の考えを説明できるようにする。

- 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。(態)



3. 学び合う。
・自分の考えを発表し、解決方法を全体で話し合う。

- 具体物や図等を用いて1つずつの考えをしっかりと理解ができるようにする。

4. まとめ・適用問題・振り返りをする。
・めあてに立ち返って、本時で解決できたことをまとめる。

まとめ: 問題の場面を考えて、商に1を足す(あまりの分を考える)時がある。

- ・商に1を加えて答えとする余りの処理のパターンの適用問題に取り組む。

ドッジボールが11こあります。1回に2個ずつ運ぶと、何回で全部運べますか。

- ・1時間の学習を振り返り、本時で考えたことや解決できたこと、さらに疑問に思うこと等をノートに書く。

ポイント

- 問題数は少なくして、じっくりと問題に向き合い、理解の定着を図る。

- 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。(思)

- 振り返りの視点を提示することで、1時間の学びを自分でしっかりと振り返ることができるようにする。

本時の目標 どんどんコース
余りを切り上げて処理する場面と余りを切り捨てて処理する場面で商と余りをどのように解釈すればよいかを考えることができる。

主な学習活動 指導上の留意点(○)・評価規準(□)

1. 問題1の把握とめあての共有をする。
・問題1(余りを切り上げて処理する場面の問題)を読んで、問題の意味を理解し、めあてをもつ。

問題1: 35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。



めあて: あまりをどうするか考えて答えをもとめよう。

2. 自力解決をする。
・全員がいすに座るために、 $35 \div 4 = 8$ 余り3の余りの3人をどうするかについて考える。
・具体物、図、数、式、言葉等を用いて考えられるようにする。

- いろいろな方法で解決できるように促す。また、その方法と方法の関連性についても考えられるようにする。

3. 学び合う。
・自分の考えを発表し、解決方法を全体で話し合う。

- 子どものやりとりを通して、多様な考えから共通点や相違点を見つける。また、具体物の操作や図、式、言葉をつなげる。

4. 適用問題をする。
・商に1を加えて答えとする余りの処理のパターンの適用問題に取り組む。

ドッジボールが11こあります。1回に2個ずつ運ぶと、何回で全部運べますか。

- 子どものやりとりを通して、多様な考えから共通点や相違点を見つける。また、具体物の操作や図、式、言葉をつなげる。

- 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。(思)

5. 問題2の解決をする。
・余りを切り捨てて処理する場面の問題を解決する。

問題2: はばが30cmの本立てに、あつき4cmの本を立てていきます。本は何きやく立てられますか。



6. まとめ・振り返りをする。
・めあてに立ち返って、本時で解決できたことをまとめる。

まとめ: 問題の場面を考えて、商に1を足す(あまりの分を考える)時や、あまりは考えず答える時がある。

- ・1時間の学習を振り返り、本時で考えたことや解決できたこと、さらに疑問に思うこと等をノートに書く。

- 振り返りの視点を提示することで、1時間の学びを自分でしっかりと振り返ることができるようにする。

①一斉授業と習熟度別授業を効果的に組み合わせる単元計画

小学校第3学年「わり算」



一斉授業と習熟度別授業を学習のねらいに即して、それぞれの指導のよさを生かしながら、効果的に組み合わせて行います。

※一部抜粋 <単元計画 全9時間> 「わり算」

時	育成を目指す 資質・能力	主な学習活動と指導上の留意点(★)		学習 形態	意図
		しっかりコース	どんどんコース		
1	<ul style="list-style-type: none"> 除法に関する用語、記号を知り、等分除の意味について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★かけ算の意味を復習する。$12 \div 3 = 4$と表し、等分除の意味を知る。 ★具体物を使って問題場面を視覚化する。同じ数ずつ分けることに着目させ、考えを図や言葉で表現できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> $12 \div 3 = 4$と表し、等分除の意味を知る。 ★等分除になる場面を考え、問題づくりに取り組ませる。 	習熟度別	<ul style="list-style-type: none"> 等分除の意味を考える活動を行うにあたり、自力解決場面での児童の取組方により指導者の支援が異なる。 しっかりコースは、具体物等を使って、問題場面を把握したり、考えを表現したりできることを重視する。 どんどんコースは、自力解決場面で、いくつもの考えをもてる児童もいるため、学び合いの場面で、互いの考えから練り合っていく活動をねらいとする。 習熟度別に分けることで、より個々の状況に応じた支援が行いやすくなる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 等分除の意味を理解する。 乗法の逆算としてみることに気づき、計算の仕方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 等分除の答えの求め方を考える。$12 \div 3 = 4$ ★習熟度別少数指導で習得した等分除の考え方を生かし、多様な考え方を比較することから除法の計算の仕方を考えることができるよう、学び合いの場面を展開する。 		一斉指導	<ul style="list-style-type: none"> 等分除の計算の仕方を考えるにあたり、前時に学習した考え方を生かし、多様な意見の中から、九九を使うことが簡潔に答えを求められることに気付くことがねらいである。
3	<ul style="list-style-type: none"> 包含除の場合も除法の式に表されることや、包含除の意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> $12 \div 3 = 4$と表し、包含除の意味を知る。 ★具体物を使って問題場面を視覚化する。第1時を生かして、包含除でも考えを図や言葉で表現できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> $12 \div 3 = 4$と表し、包含除の意味を知る。 ★包含除の問題づくりを通して、等分除との違いを理解し、学習の定着を図る。 	習熟度別	<ul style="list-style-type: none"> 第1時の等分除と同様、包含除の意味を考えるため、個々の学習状況に応じて考えることができる学習環境をねらいとしている。
4	<ul style="list-style-type: none"> 包含除も乗法の逆算とみることに気づき、計算の仕方考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 包含除の答えの求め方を考える。$20 \div 4 = 5$ ★習熟度別少数指導で習得した包含除の考え方を生かし、多様な考え方を比較することから除法の計算の仕方考えることができるよう、学び合いの場面を展開する。 		一斉指導	<ul style="list-style-type: none"> 包含除の計算の仕方考えるにあたり、前時に学習した考え方を生かし、多様な意見の中から、等分除と同様に九九を使うことが簡潔に答えを求められることに気付くことがねらいである。

②担当教員間の共通理解を図るために、学習のねらいや内容を明確にした単元計画づくり

小学校第3学年「あまりのあるわり算」



ポイント! 単元が始まる前に全時間の学習計画を立て、両コースの指導者がねらいを共有して授業を進めることが大切です。単元計画では、評価規準も含めた計画をしっかりと立て、2つのコースの指導者の連携を深めます。

下のような単元計画を単元前の指導者の打合せに使います。これを見ながら、それぞれのコースでの授業の進み具合や子どもたちの理解の程度に合わせて随時変更していくことも可能です。ただし、単元の終末は、必ずそろそろようにします。



※一部抜粋

<単元計画 全9時間>

「あまりのあるわり算」

※平成20年告示の学習指導要領による

時	主な学習活動	評価規準				
1	<p>既習のわりきれのわり算と関連付けて、余りがある場合でもわり算ができることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の余りのないわり算の復習を行う（等分除）。 割り切れない場合があることに気付かせ、余りのあるわり算に対する興味・関心を高める。 「わりきれの」「わりきれない」の用語を知る。  <p>④何算になるか考え、答えの出し方をみつけよう。 ⑤あまりがある場合でも、あまりがない時と同じように、わり算で計算ができ、答えも同じように考えて出すことができる。</p>	<p>【関・意・態】 わり算の問題に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【考】 既習の割り切れる場合と結びつけ、割り切れない場合でもわり算として考えている。</p>				
2	<p>余りがある場合の計算の方法を理解する。</p> <p>課題1：あめ13個を1人に4個ずつ分ける。 課題2：あめ17個を1人に5個ずつ分ける。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>ゆっくり</th> <th>どんでん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> おはじきや絵(図)を使い商や余りをみつける。 乗法九九を使い商・余りを考える。 式の表し方を知る 「$13 \div 4 = 3$あまり1」 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を使い商や余りをみつける。 式の表し方を知る 「$13 \div 3 = 4$あまり1」 </td> </tr> </tbody> </table>  <p>④あまりのあるわり算の計算の方法や答えの書き方を知ろう。 ⑤あまりのあるわり算も九九を使って計算する。</p> <p>「□÷△=○あまり◇」と書く。</p>	ゆっくり	どんでん	<ul style="list-style-type: none"> おはじきや絵(図)を使い商や余りをみつける。 乗法九九を使い商・余りを考える。 式の表し方を知る 「$13 \div 4 = 3$あまり1」 	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を使い商や余りをみつける。 式の表し方を知る 「$13 \div 3 = 4$あまり1」 	<p>【考】 割り切れない場合の除法の計算の仕方について、既習の割り切れる場合を基に考え、具体物や図、式等を用いて説明している。</p> <p>【技】 余りのあるわり算の答えを、乗法九九を使って求めることができる。</p>
ゆっくり	どんでん					
<ul style="list-style-type: none"> おはじきや絵(図)を使い商や余りをみつける。 乗法九九を使い商・余りを考える。 式の表し方を知る 「$13 \div 4 = 3$あまり1」 	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を使い商や余りをみつける。 式の表し方を知る 「$13 \div 3 = 4$あまり1」 					

2つのコースで学習活動が異なる場合は、それぞれのコースごとに、その内容を書いておきます。

両コースでの評価の妥当性や信頼性を高めるために、しっかりと評価規準を立てておきます。

①学習集団の状況に応じてアプローチを変え、同じめあての達成を目指す授業

小学校第3学年「2けたの数をかける計算」

じっくりコース

どんどんコース

本時の目標：何十をかける乗法の計算方法を考え、理解できる。

両コース同じ



問題：ベビークラスは、ひとくし4こです。30くしでは何こになるでしょう。

めあて：何十をかける計算はどうすればよいのだろう。

自力解決

○2つのコースで解決方法を変える。

ポイント1

＜じっくりコース＞

主に具体物や図等を用いて解決していきます。



図を使って考えてみようかな。

＜どんどんコース＞

具体物、図、数、式等を用いて解決していきます。1つの方法だけでなく、いろいろな方法で解決できるようにしていきます。



どんな方法で考えてみようかな。

もっと他の方法はないかな。

学び合い

○2つのコースで子どもの考えの取り上げ方を変える。

ポイント2

＜じっくりコース＞

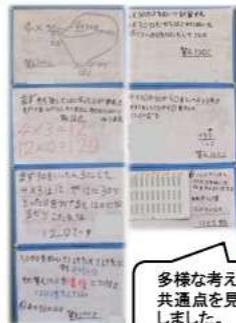
具体物を用いて、1つずつの考えをじっくり理解できるようにします。



具体物を操作しながら、自分の考えをみんなに発表しました。

＜どんどんコース＞

多様な考えや多様な表現（言葉、図、数、式等）から、いろいろな考えを関連付けて理解を深めていきます。



多様な考えを発表し合い、共通点を見つけて分類しました。

適用問題

○2つのコースで問題数と難易度を変える。

ポイント3

＜じっくりコース＞

問題数を少なくして丁寧に時間をかけて定着を図ります。

＜どんどんコース＞

問題数を増やしたり、発展的な問題にも取り組んだりします。

②学習集団の状況に応じた板書の工夫

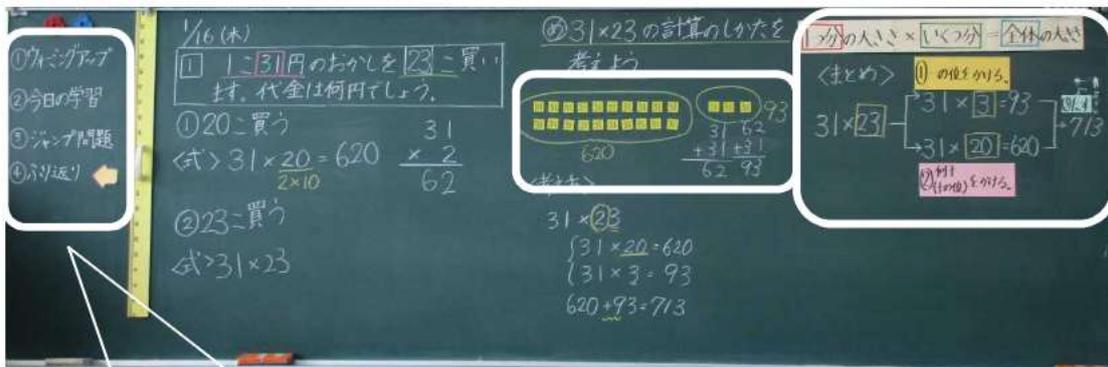
小学校第3学年「2けたの数をかける計算」

じっくりコース



1個31円のおかしをカードに置き換えて理解できるようにしています。1つの方法を丁寧に理解できるようにしています。

式を立てる時のヒントや考えの手順を見やすく提示しています。

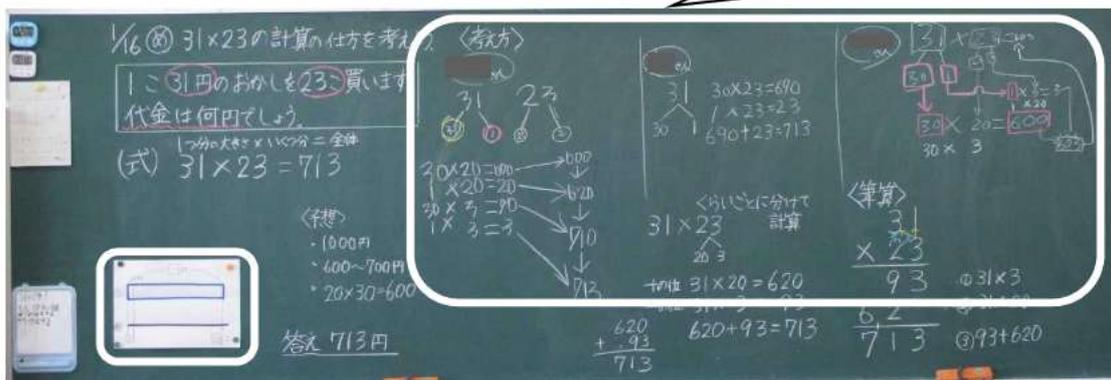


1時間の学習の流れを提示しています。

どんどんコース



数や式等を用いて説明をしました。1つの問題に対して、様々な解決方法を比較できるように黒板に書き残すようにしています。



問題文の意味を捉えたり、およその答えの予想を立てるために、テープ図を使っています。

①学習集団の状況に合わせた学習支援が見られる授業

中学校第1学年「量の変化と比例、反比例～関数の利用～」

基礎充実コース

基礎活用コース

ゴールは同じ

本時の目標

身のまわりの事象から、比例の関係にある2つの数量を見だし、グラフを利用して問題を解決することができる。

導入

○本時の学習につながる **予習課題** を確認する。

ポイント1

＜基礎充実コース＞
本時の学習につながる **予習課題** で **既習事項** の確認

4.4.0 関数の利用 予習課題 月 日

＜確認しよう＞
○グラフの特徴は？また、どんなことがわかる？

○速さとは何？ ○速さの計算方法は？

本時の学習につながる既習事項を予習課題でおさえることで、生徒はいつでも確認できます。

＜基礎活用コース＞
本時の学習につながる **予習課題** の確認

4.4.0 関数の利用 予習課題 月 日

＜確認しよう＞
○グラフからどんなことがわかるかな

ポイント2

学習活動①

○両コースとも同じ問題に取り組むが、説明させる方法で難易度を変える。

＜基礎充実コース＞
例題を（個人→ペア）まとめる

【例1】学校から東へ2400m離れた古城が丘公園まで、Aさんは自転車、Bさんは同じ道を歩いて行きました。次のグラフは、その進行のようすを示したものです。

学校を出発して5分後のAさんとBさんの離れている距離をグラフ上に表したり、その距離を求めます。

(1) 学校を出発してから5分後のAさんとBさんの離れている距離を求めよう。

＜基礎活用コース＞
例題を手掛かりにして例題2に取り組む

【例1】学校から東へ2400m離れた公園まで、Aさんは自転車、Bさんは歩いて行きました。次のグラフは2人が公園に着くまでのようすを示したものです。このグラフから、いろいろなことを調べましょう。

学校を出発して5分後のAさんとBさんの離れている距離をグラフ上に表したり、その距離の求め方の手順をまとめたりします。

(1) 学校を出発してから5分後のAさんとBさんの離れている距離は、グラフ上のどこに表れるか、グラフ上に示さない。また、その距離を求めるとき、どのような手順で解けばよいか、自分の考えを書きなさい。

ポイント3

学習活動②

○両コースとも同じ問題に取り組むが、問う内容で難易度を変える。

＜基礎充実コース＞
スモールステップで問題に取り組む

(1) Cさんが学校を出発してからX分後に東へym進むとして、表を完成させなさい。

x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
y	0										-1800

(2) yをxの式で表しなさい。また、x、yの変域をそれぞれ求めなさい。

(3) Cさんは学校を出発してから5分後にどこにいますか。また、そのときCさんがAさん、Bさんとの離れている距離を求めなさい。

問題を解く際に手がかりとなる表や言葉等ががいています。

＜基礎活用コース＞
次の課題に進む（個人→ペア）

①3人が学校を出発してから5分後、BさんとCさんは何m離れていますか。

②3人が学校を出発してから8分後、AさんとCさんは何m離れていますか。

学びの振り返り

○学びを実感できる時間の設定をする。

②学習集団の状況に応じてアプローチを変え、同じめあての達成を目指す授業

中学校第1学年「空間図形～回転体の体積～」

基礎充実コース

基礎活用コース

ゴールは同じ

本時の目標

直線を軸として回転させてできる立体の体積を求めることができる。

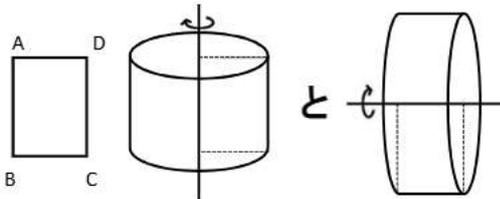
導入

○それぞれのコースで生徒の学ぶ意欲をひき出す。

ポイント1

<基礎充実コース>: **長方形** を回転

直線ABを軸に回転 直線ADを軸に回転



・イメージしやすく、わかりやすい図形で導入

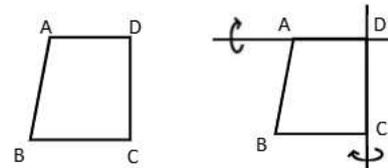
発問も同じ

どちらの体積が
大きいかな？



<基礎活用コース>: **台形** を回転

直線DCを軸に回転してできた立体の体積と、
直線ADを軸に回転してできた立体の体積



・やや複雑ではあるが、チャレンジしたくなるような図形で導入

ポイント2

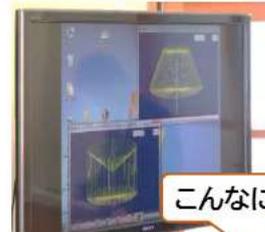
学習活動

○問題解決的な学習の中で、自分たちで問題を見つけて解決する。

1人で考えたことを、

先生の手作り教材や
ICTからヒントをもらって、

仲間と解決！



こんなに違うんだね

ところで、どんな図形でも同じこと
がいえるのかな？



体積は同じだと思ったけど…

学びの振り返り

○学びを実感できる時間の設定をする。

ポイント3

・学びの“振り返り”だけでなく、授業中に感じた新たな「問い」についても振り返り、家庭学習につなげる。



回転の軸を変えても体積が変わらない図形ってあるのかな？

正方形は軸を変えて回転させても体積は変わらないね。このような図形は、ほかにもあるかもしれないから家で考えてみるよ。

指導者の単元ごとの振り返りの蓄積



それぞれの単元ごとに、指導の成果と課題等をまとめて残しています。これを見ることで、領域での成果と課題が明確になったり、次の単元の指導への手がかりとしたりできます。また、次年度の指導の参考とすることもできます。

～単元振り返りシート例～

※一部抜粋

【領域】 A:数と計算 B:図形 C:測定 D:データ活用

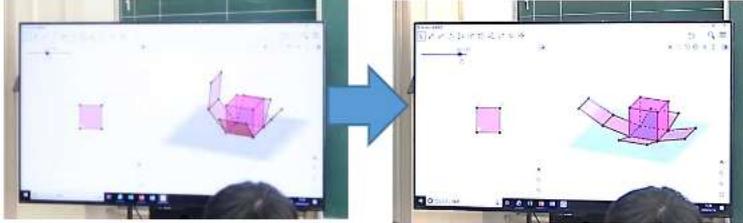
	単元	指導の形態等	留意したこと	成果と課題		備考
				成果	課題	
10	C 測定 長さ	第1、2、5時はTTで行う。 第3、4、6時は2グループに分ける。 グループ分けに偏りがないようにするため、2学期に少人数教室で学習した回数が少ない子が少人数教室に来るようにする。	・巻き尺を使って実測する時は、TTで班活動で行う。道のりや距離を学習する時とまとめの練習は2グループに分けて行う。	<TT> ・班ごとに巻尺やロードカウンターなどを使って測定する場面では、協力し合ったり教え合ったりする姿が見られた。 ・子どもたちの測定がうまくいかなかったり、困っていたりする場面で、すぐに対応することができた。 ・広い場所での測定のとときに、二人の教師で分担することができたので目が行き届いた。 <少人数グループ> ・道のりや距離の学習では、一人ひとりに目が行き届き、計算間違いをすぐに指摘し、指導することができた。		
11	A 数と計算 小数	習熟度グループ (1学級2グループ) (2学期始めに実施したレディネステストの結果と分数の評価テストの結果で分ける。)	・単元を通して2グループの少人数指導を行う。 ・どんだんグループでは課題やまとめは自分たちの言葉で説明できるようにする。 ・どんだんグループでは、授業の後半に発展問題に取り組み、発展的な問題にも対応できる力を養う。 ・じゅくりグループでは、単元の始めに「分数」の復習をしてから本単元に入っていく。	<どんだんグループ> ・理解できていないところにすぐに気付いて指導することができた。 ・答えの出し方を考えるときに、誰がどのように考えているか把握しやすかったので、発表し合うときに意図して指名するなどして、考えを交流させることができた。 ・時間に余裕があったので、レッツトライや応用問題、振り返りをする時間が取りやすかった。 <じゅくりグループ> ・単元の始めに「分数」の復習をすることによって、1Lを10等分した1つ分が1/10Lであるということがスムーズに理解できた。 ・小数を数直線に表す方法や、たし算やひき算の答えの求め方など、自分の考えを発表したり聞いたりする時間をしっかり取ることができた。	筆算するとき位をそろえて書いたり、1/10の位の0に斜線を引いたりすることがなかなか定着しなかった。 (評価テストの結果から)	
12	C 測定 重さの単位					

単元の終了ごとに、指導者は、振り返りを行い、指導の足跡として上記の項目(「指導の形態等」、「留意したこと」、「成果と課題」)ごとに記録を残していきます。

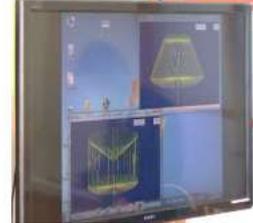


ICT機器の活用

立方体の展開図を動画で確認しています。動画を用いることで、面と面や辺と辺の位置関係に着目して、立体の各面の様子を観察することができます。



シミュレーションソフトを活用することで、回転体ができる様子がよく分かります。あわせて、自分が予想した立体と比べることができます。



いつでも誰でも使える算数・数学グッズ

具体物等が整理して置いてあります。また、授業の中で、児童生徒の状況に合わせて教具としてもすぐに使うことができます。



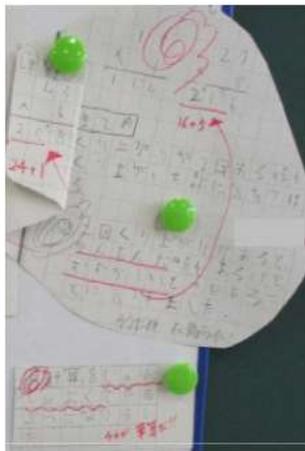
学びの定着を図る学習プリント

単元ごとに、整理がされていると、課題が早くできた時に、自主学习に、発展問題に…といろいろな場面で活用ができます。



ノート掲示

児童のノートのコピーを掲示しています。指導者は、どこがどのようにいいのかコメントを入れています。子ども同士の学び合い、高め合いが生まれる環境設定です。



机といすから離れて…

少人数で学習をするため、教室も広々と使えます。床を使って学習をしたり、みんなで輪になって話し合いをしたりすることができます。



振り返りができる学習のまとめの掲示

既習のポイントが掲示されています。授業での復習や児童生徒が困った時のヒントとして使うことができます。

